

会報  
52号

# 函 報

函館の歴史的風土を守る会会報	
No.52 H7. 12. 1	
発行所	函館の歴史的風土を守る会
事務局	函館市五稜郭町43-9
	五稜郭タワー株式会社(中田)
	電話(0138)51-4785
印刷所	(有)三和印刷 電話45-0845

## 活かしたい港湾遺産！ 地域振興と遺構保存をさぐる



函館西部ウォーターフロント（親水プロムナード）の見学会並びに学習会が、平成7年9月23日(土)、講師に千代肇氏（北海道教育大学函館分校講師）・阿部正二氏（函館市港湾部計画係長）を招き開催された。

午後1時「新島襄海外渡航記念碑」前に集合した参加者30名は、本会を企画した千葉・上貞両会員のオリエンテーションの後、函館市港湾部の担当者より、「大町地区整備計画」の概要説明を受け、緑の島周辺の施設を見学した。

その後“金森亭”での勉強会では担当者から「函館港湾計画」についてスライドを用いて、「函館港湾の歴史性をふまえ、港湾機能を高めつ、今後の計画をすゝめていきたい」と説明が

あった。

質疑応答では、

- ・遊歩道の安全管理について？
- ・障害者への配慮について？
- ・水上警察署跡の活用計画は？
- ・旧町名を残しては？
- ・石製ピット（船を係留する杭）はそのまま保存して欲しい。

等の意見が出された。

千代先生より、新島襄の碑の周辺は、昔の外国人居留地で、50間×40間=2,000（坪）、堀割で囲まれた出島で、橋は1カ所、現在の斜路は当時の波止場であり、日本の港湾土木の技術研究史上極めて貴重な遺産であることが指摘された。



## 第2回「市街化周辺の乱開発を防ぐための現状把握見学会」

第2回「市街化周辺の乱開発を防ぐための現状把握見学会」が10月29日、約25名が参加して開催された。

これは、歴風会の石井運営委員をチーフとする特別委員会で、昨年度より継続して取り組んできたテーマである。

新聞等にも報道されたように、都市計画法による無指定区域の土地が、モーテルの建築や産業廃棄物の保管場所等によって乱開発されている現状を確認して、



1日も早い法の摘要によって戒めたいと云うものである。

つまり、無指定だから何にでも利用出来ると云うのではなく、調整区域外だからこそ、緑化地帯や田園風景の聖域としての利用を大多数の市民が期待している。

9月の市議会で、乱開発防止の意志表明がなされ、今後は早急に北海道に都市計画決定をさせていくのという都市計画をつくらなければならない。今回の実態を認識する調査は、午後9時より約3時間に亘り、亀田中野町（民間開発住宅団地）と陣川・東山の無指定地区を対比する形で実施された。



## 「函館の歴史的風土に生きる建物の写真展」

「函館の歴史的風土に生きる建物の写真展」が10月31日～11月5日まで、NHKホールで開催された。これは山口俊明氏が永年に亘り「函館市民共有の歴史的文化遗产としての建物」の記録作りに取り組まれており、そのうち「入村質店」「千秋庵総本家」「太刀川米穀店」「函館ハリストス正教会」「高龍寺」「函館護国寺」「五島軒本店」等23点が展示された。

山口俊明氏は今年2月行われた第17回歴風会の新春チャリティーパーティーで歴風文化賞を受賞した建造物4件の大型パネルを作成して副賞として寄贈され、受賞者から大いに喜ばれた。

当会では、氏の今後のご活躍を祈念し、あわせて、建造物の撮影にあたり、その所有者や関係機関の御協力をお願いする意味で、今回の展示会を企画した。

山口氏は「目下歴史的建造物の抒情表現に挑戦中です。函館市民共有の歴史的文化遗产としての建物…函館らしさの息づかいを見せる建物…その表情を捉えるのに苦労した」と述べている。



## 第24回函館市民大撮影会と写真コンテスト



「第24回函館市民大撮影会と写真コンテスト」が10月8日、元町公園函館市写真歴史館前で行われた。従来は函館写真カメラ商連合会・函館写真協会・(社)函館国際観光協会の共催で行われてきたが、今年からはじめて歴風会が共催として参画した。

当会では、「ふるさと写生会」を継続事業として開催してきたが、マンネリ化の傾向が否めない状態となり、「写真展」に変更して飯田会員を担当者として検討してきた。当会としては、青少年を対象としたコンテストを実施して、文化財の保護思想の普及を計るつもりであるが、今回の共催事業によって、写真コンテストの実質的なノー・ハウを得た。

## 頼もしい「行政」と「民間」の調和！ 隣町に学ぶ「文化」への取組み

今年度の研修会は、隣接する七飯町と大野町の文化祭と文化財の「旅」をしました。

10時、会員の車に分乗して一路七飯町へと赤松街道を進み、途中「男爵薯<sup>カカシ</sup>」の記念碑を見学した。

七飯町の文化祭は「案山子」と「粘土細工」がメインの展示物であるが、農機具や生活資料は膨大な量で、七飯町の郷土史の古さを物語っていた。

七飯町では「一本栗神社・庚申塚」等を見学した後、大野町へ向った。大野町の郷土資料館では、大野町が生んだ、昭和初期の世界的なマンガ家「小山内竜」の特別展と、大野町が発祥の地と云われている道南地方の「野鍛冶展」が行われていた。大野町の資土資料館の収蔵品は、農機具も多いが、風呂屋・鍛冶屋・バス会社・神社等の生活資料が非常に行き届いた説明と整理・陳列され見ごたえがあった。七飯・大野両町共に、地元の「郷土史研究会」が中心となっ

て、保管資料の整理・陳列を行っており、民間団体と行政のコミュニケーションの良さが、文化祭行事を盛り立て、いることを知らされた。その後「三角測量基準点」を見学して帰途についた。



《会員消息》

吉村会員

◇（11月17日、於函館市総合福祉センター）

当会の事務局でお世話になっている 五稜郭タワー株式会社主催の「第2回文化発見企画」—函館記録映画上映会・講話会—で、吉村富士夫運営委員が講師をつとめた。

この企画は、五稜郭タワー(株)が創業30周年記念にあたり、「文化発見企画」事業を春・秋季2回開催し、函館市民の文化活動にスポットをあて、いこうとする企画で、今回は昭和9年の函館大火とその復興をかけた第1回港祭りの様子を、今井舛太郎氏撮影の16ミリ・フィルム（市立函館図書館所蔵）の上映に、吉村会員が解説・講話をした。

《事務局だより》

9月23日 「西部ウォーターフロント見学会」終了後、第2回小委員会を開催。

○写真展について

「第24回函館市民大撮影会と写真コンテスト」の共催について討議。

10月1日 「栗の木と石佛」保存会秋祭り会田会員「はこだて史譚」を頒布する。

10月5日 「函館牛乳」(株)函館酪農公社特別会員入会(吉村会員紹介)

10月7日○函館市観光課より神奈川県立光稜高校生の町並保存に関する地域調査への協力要請を受ける。(10/20実施約15名参加。会長・田尻参加する。)

○「開港五都市景観会議」について相談受ける。

10月8日 「第24回函館市民大撮影会と写真コンテスト」に、会長、飯田会員出席する。

10月17日 第3回 小委員会開催

10月22日 故工藤光雄 事務局長1周忌法要に会員多数参列する。

10月29日 「市街地周辺の乱開発を防ぐための現状把握現地見学会」開催。23名の参加者と市開発課より2名参加。

10月30日 10/31日～11/5日開催の山口俊明氏撮影による「函館の歴史的風土に生きる建物の写真展」NHKホールでの準備に会長・飯田・田尻・加賀谷・吉村会員出席する。

11月5日 研修会「七飯・大野町の文化財を訪ねる会」に13人参加する。

11月7日 第2回 運営委員会

○チャリティ・パーティー

'96. 2. 16. P.M. 6:30～9:00五島軒本店と決まる。

《グループだより》

◇MGMまちづくり通信No.1（元町グランドワークムーブメント）

第3回 元町31番地住環境ワークショップ実施

◇隅田川 第16号（隅田川市民交流実行委員会）  
震災と川、隅田川の生物 活動記録

◇から 10号（函館からトラスト事務局）  
赤瀬川原平師函館を「じろじろ」する。他

◇「小樽の建築探訪」北海道新聞社  
（小樽再生フォーラム編）

〈159頁変形・カラー123棟〉 2冊寄与される。

◇おおの 第39号（大野町文化財保護研究会）

'95大野町文化祭郷土資料展  
—漫画家小山内竜作品展—

《インフォメーション》

「はこだて史譚」 一會田金吾郷土史論集一

B5判 303頁 ¥1,600 送料 ¥380

内容：函館・神山の石仏群、桔梗の開拓、安部安東氏と蛸崎氏の北渡関係年表など

「旧北海道庁函館支庁庁舎」 絵はがき

カラー刷 5葉セット ¥300

前値は500円でした。いよいよ復元完了しましたので値下げしました。

「歴風会」に入会しませんか？

函館の歴史的風土をあなたと共に学び、知らせ守って行きたいのです。

年会費 ¥3,000 団体会費 ¥5,000

※お申込みは、浜島 (52) 0856

加賀谷 (52) 6094まで